

2019 年卒
Vol.08

7月1日時点の就職活動調査 <速報>

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018年7月発行)

2019年卒業予定者の採用面接が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は今年も8割を超えていたことがわかった。

内定率のほか多岐にわたる項目を調査したが、取り急ぎ主要指標のみ紹介したい。

1. 7月1日時点の内定状況

- 内定率は81.1%。6月(65.7%)より15.4ポイント上昇
- 前年同期実績(83.2%)を2.1ポイント下回る
- 就職活動終了者は全体の68.2%。前年(66.1%)より2.1ポイント上昇。継続者は31.8%

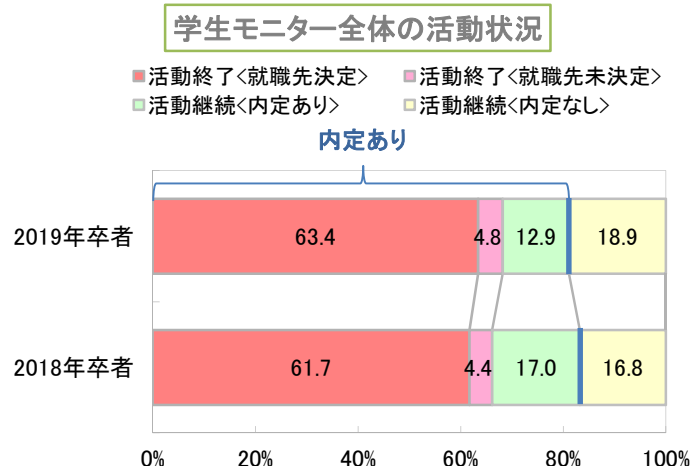
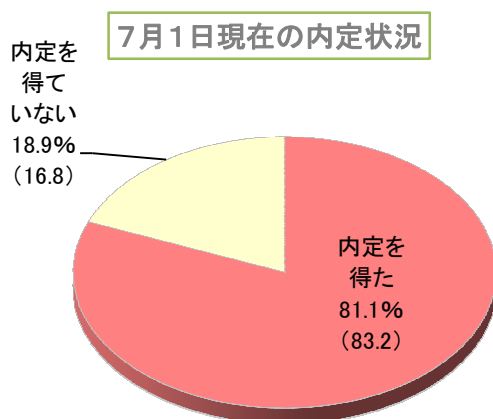
2. 未内定者が内定を得る見通し

- 未内定者のうち6割(62.7%)が「内定の見通しが立っていない」
- 4人に1人が「就職以外の道(進学、留年など)を考えている」(24.0%)

1. 7月1日時点の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は81.1%。先月調査(6月1日現在)の65.7%から1カ月で15.4ポイント伸び、2年連続で8割を超える高水準となった。ただし、前年実績(83.2%)には届かなかった。5月調査では前年同期を4.7ポイント上回り早期化が目立っていたが、6月には伸びが鈍化し、今回前年同期をやや下回った格好だ(2.1ポイント減)。大手志向の強まりやエントリー社数の減少なども影響していると見られる。

調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は63.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者(4.8%)を合わせると、終了者は68.2%になる。内定率は前年同期を下回ったが、内定取得者の終了ペースが早まったことで、終了者の割合は増えた。活動継続者は「内定あり」(12.9%)、「内定なし」(18.9%)を合わせて31.8%。



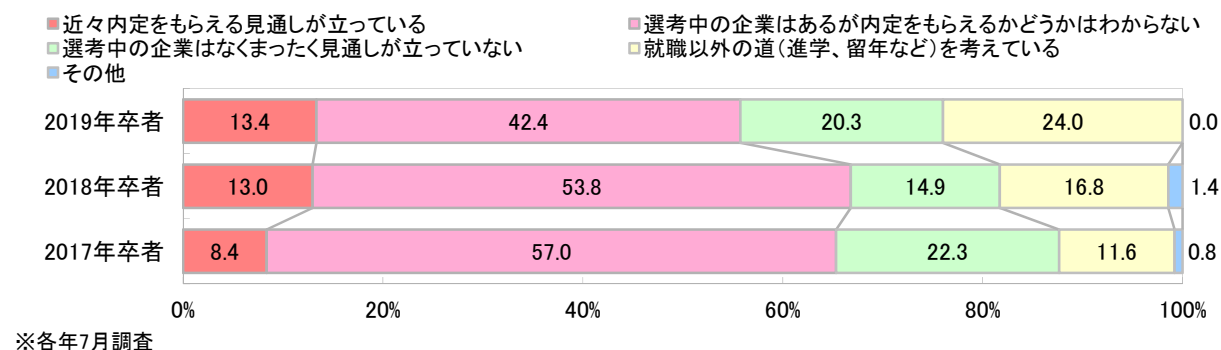
*「内定」には、内々定を含む

※()内は2017年の同調査での7月1日現在の数値

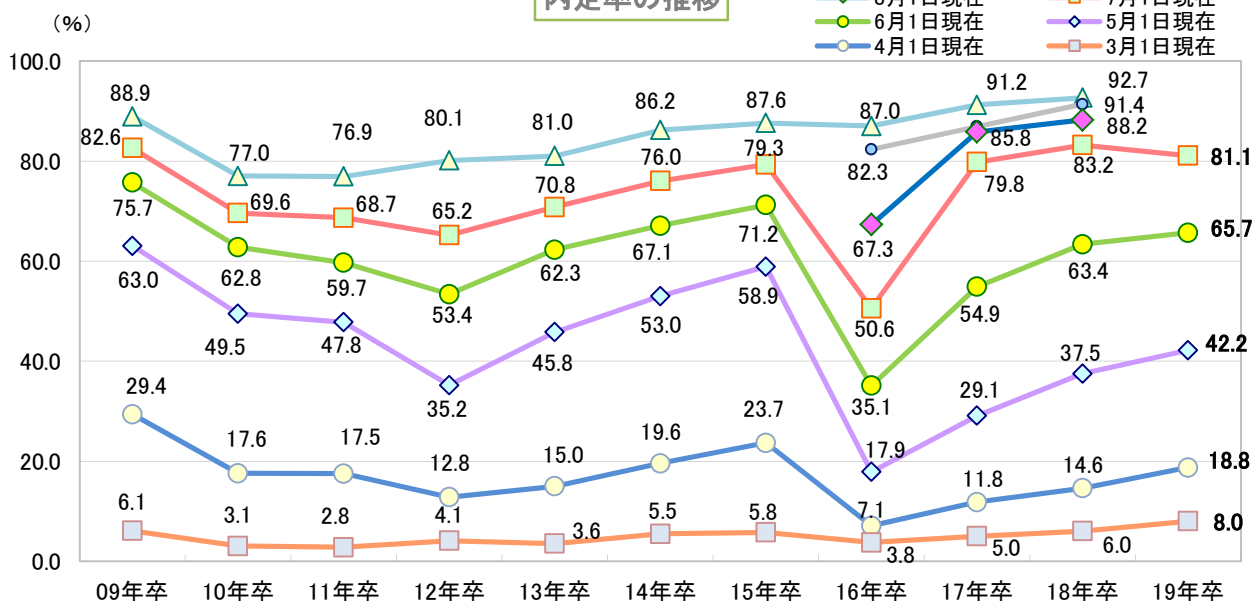
2. 未内定者が内定を得る見通し

未内定学生の内定獲得の見通しを見ると、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定をもらえるかわからない」（42.4%）だが、前年調査に比べ11.4ポイント減少。「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」、つまり持ち駒企業がなくなった状況の学生が増加しており（14.9%→20.3%）、厳しさが増していることがうかがえる。両者を合わせると62.7%となり、未内定者の6割強が先の見えないう状況にあると言える。一方、「就職以外の道（進学、留年など）を考えている」という回答が24.0%に上り、4人に1人が就職の見送りを視野に入れていると回答した。

未内定者が内定を得る見通し



【参考】



調査概要

調査対象：2019年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
 回答者数：1,147人（文系男子351人、文系女子330人、理系男子307人、理系女子159人）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2018年7月1日～5日
 サンプルング：キャリアス就活2019学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアスリサーチ